

「ヨーロッパサッカーにおけるプレイスタイルの比較」
イングランド・イタリア・スペインを中心に
Comparison of Play style in Europe soccer : England, Italy, Spain

1K06B038

指導教員 主査 志々田文明先生

内田 善大

副査 関一誠先生

【はじめに（研究動機及び目的）】

サッカーの世界ではヨーロッパの力が非常に高いと言われている。しかし、ヨーロッパ各国においてもパスを中心に攻めるスタイルとドリブルを多用するスタイルに見られるように各国にそれぞれ明確な相違点も存在する。これはプレイの自由度が比較的高いサッカーだからこそ起こる問題であるが、具体的に述べると以下のことがあげられる。a) 守備的なサッカーを好むイタリア b) 体のぶつかり合いに大きい価値を見出すイングランド c) 攻撃的かつ魅せるサッカーを披露するスペイン。d) ウイングを配し、サイドアタックで攻撃をするオランダ。

本論文の課題は、ヨーロッパ各国におけるプレイスタイルと歴史に培われた伝統（国民の美学）を比較し、関連付けて論じ、それが現在のサッカーのプレイスタイルにどのように影響しているかを考察する。また、プレイスタイルとの関係で、日本が今後、世界のサッカー強国と肩を並べる為にはどのような課題があるのかについても触れてみたい。ヨーロッパの中でも主に1．イングランド2．イタリア3．スペインを比較対象として取り組むこととする。本研究は文献研究である。

章 肉体的接触を楽しむイングランド

中世イングランドではサッカーの起源となる乱暴な「モップ・フットボール」というゲームが生まれた。このゲームには明確なルールがなく、激しい肉弾戦が延々と続くゲームであり、肉体的接触と共同体意識を高めることが目的と

して行われた。このような背景があり、イングランドでは現在でも敵と接触してボールを奪い合うことがサッカーでは大切なのである。また正々堂々と正面からぶつかるべきで、周囲を欺くような汚いプレーは激しく非難されるべきというフェアプレー観もここから生まれた。

章 中世イタリアの歴史と美学

19世紀のイタリアでは多くの都市国家が独立した地位を持ち、戦争を繰り返していた。イタリアではサッカーはこの都市間の戦争の代わりであり、内容よりも結果が重視されることで守備的で勝利のみが要求されるサッカーができあがった。現代の総力戦とは異なり、中世の戦争には「美」があった。単騎乗り込んで敵陣を切り裂くことに「美学」があり、自己犠牲的にチームに貢献する戦いぶりが生まれたのであった。

章 攻撃サッカーの歴史と思想

スペインはサッカーの試合では面白さを優先し、勝負にこだわってこなかった。またイベリア半島の全てが独立国家として残るほど、それぞれの地方性が強く、代表チームに関心、まとまりがなかった。このような歴史的背景があり、国を象徴する伝統的なプレイスタイルもなかったのであった。その後、外国人指導者の攻撃的スタイルを導入することになり、華やかさを重視する国民性とも合い、面白さを重視した攻撃的スタイルが浸透した。

章 （結論）

、 、 章で明らかになったことを踏まえ、各国のブレースタイルと歴史に培われた伝統を比較し、歴史的背景や思想がブレースタイルにどのように影響しているのかを考察した。共通して言えるのは「大国」と言われる国は伝統を持ち、それに裏打ちされた確固たるスタイルが確立されていることである。全て異なるがどの国が良い、悪いというものではない。確固たるスタイルを持ち、それを貫いているからこそ、いつの時代も他の国々と一線を隔した強さを維持できるのである。日本の事を考えたとき、自らで日本のスタイルを確立していかなければいけないと考えた。